

**製品名: TRIP15 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab19279**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	人間、マウス、ラット、サル
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	55kDa

**抗原情報**

遺伝子名	COPS2 COPS2; CSN2; TRIP15; COP9 signalosome complex subunit 2; SGN2; Signalosome subunit 2;
別名	Alien homolog; JAB1-containing signalosome subunit 2; Thyroid receptor-interacting protein 15; TR-interacting protein 15; TRIP-15
遺伝子 ID	9318.0
SwissProt ID	P61201
免疫原	抗血清はヒト COPS2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 181-230

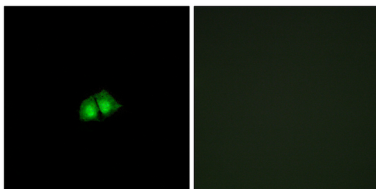
**背景**

機能: COP9 シグナロソーム複合体 (CSN) の必須成分。CSN は、様々な細胞プロセスや発生プロセスに関与する複合体です。CSN 複合体は、SCF 型 E3 リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱ネディル化を媒介することで、ユビキチン (Ubl) 結合経路の重要な調節因子であり、SCF、CSA、DDB2 などの SCF 型複合体の Ubl リガーゼ活性を低下させます。また、この複合体は、おそらく CK2 および PKD キナーゼとの関連を介して、p53/TP53、c-jun/JUN、IkappaBalpha/NFKBIA、ITPK1、IRF8/ICSBP のリン酸化にも関与しています。CSN 依存性の TP53 および JUN のリン酸化は、それぞれ Ubl システムによる分解を促進および保護します。NIF3L1 との相互作用を介して神経分化の初期段階に関与します。、PTM:CK2 および PKD キナーゼによってリン酸化されます。、類似性:CSN2 ファミリーに属します。、類似性:1 つの PCI ドメインを含みます。、サブユニット:NIF3L1 と相互作用します (類似性による)。COPS1/GPS1、COPS2、COPS3、COPS4、COPS5、COP6、COPS7 (COPS7A または COPS7B)、および COPS8 で構成される CSN 複合体の構成要素です。複体内で、COPS1、COPS4、COPS5、COPS6、および COPS7 (COPS7A または COPS7B) と直接相互作用すると考えられます。CUL1 および CUL2 と相互作用します。特に、甲状腺受容体 (TR) のリガンド結合ドメインと相互作用します。相互作用には甲状腺ホルモンは必要ありません。IRF8/ICSBP1 および核内受容体 NR2F1 および NR0B1 と相互作用する。機能:様々な細胞プロセスおよび発生プロセスに関与する複合体である COP9 シグナロソーム複合体 (CSN) の必須構成要素。CSN 複合体は、SCF 型 E3 リガーゼ複合体のカリンサブユニットの脱ネディル化を媒介し、SCF、CSA、DDB2 などの SCF 型複合体の Ubl リガーゼ活性を低下させることで、ユビキチン (Ubl) 結合経路の必須調節因子である。複合体はまた、おそらく CK2 および PKD キナーゼとの関連を介して、p53/TP53、c-jun/JUN、IkappaBalpha/NFKBIA、ITPK1 および IRF8/ICSBP のリン酸化にも関与している。CSN 依存性の TP53 および JUN のリン酸化は、それぞれ Ubl システムによる分解を促進および保護する。NIF3L1 との相互作用を介して神経分化の初期段階に関与します。、PTM:CK2 および PKD キナーゼによってリン酸化されます。、類似性:CSN2 ファミリーに属します。、類似性:1 つの PCI ドメインを含みます。、サブユニット:NIF3L1 と相互作用します (類似性による)。COPS1/GPS1、COPS2、COPS3、COPS4、COPS5、COP6、COPS7 (COPS7A または COPS7B)、および COPS8 で構成される CSN 複合体の構成要素です。複体内で、COPS1、COPS4、COPS5、COPS6、および COPS7 (COPS7A または COPS7B) と直接相互作用すると考えられます。CUL1 および CUL2 と相互作用します。特に、甲状腺受容体 (TR) のリガンド結合ドメインと相互作用します。相互作用には甲状腺ホルモンは必要ありません。IRF8/ICSBP1 および核内受容体 NR2F1 および NR0B1 と相互作用する。

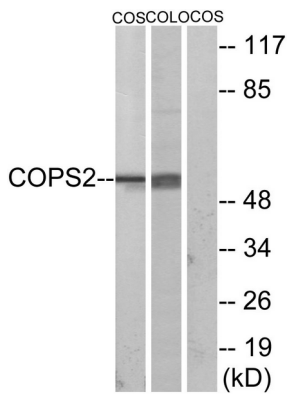
## 研究分野

シグナル伝達、タンパク質輸送、小胞輸送、コートタンパク質、エピジェネティクスと核シグナル伝達、転写、ポリメラーゼ関連因子、ポリメラーゼ II 転写、転写因子

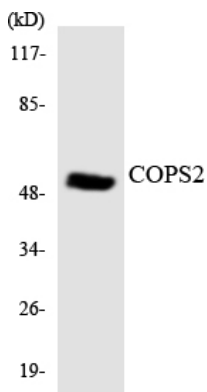
## 画像データ



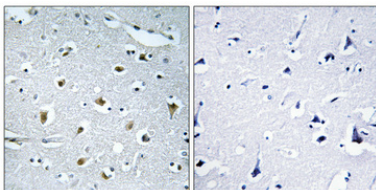
COPS2 抗体を用いた A549 細胞の免疫蛍光染色。右の写真は合成ペプチドでブロックした状態。



COPS2抗体を用いたCOS7細胞およびCOLO205細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



COPS2抗体を使用した293細胞からの溶解物のウェスタンブロット分析。



パラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。抗体は1:100 (4℃、一晩) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。